



博物館本館

【ほっかいどうだいがくのうがくぶしょくぶつえん・はくぶつかん】

北海道大学農学部植物園・博物館

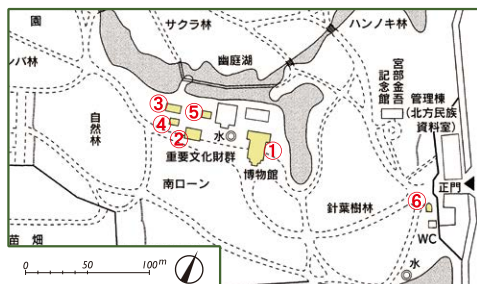
最も古い博物館

現北海道庁の西部一帯は、かつて開拓使の牧羊場であった。明治15(1882)年、その一角に札幌博物館が建てられた。明治17(1884)年、牧羊場は植物園用地として札幌農学校に移管され、その翌年に博物館倉庫が建てられた。明治33(1900)

年に博物館事務所、明治44(1911)年に植物園門衛所が建てられた。この間、園路がつくられ、現在に見られる植物園に整備された。

博物館本館は、建築以来その機能を変えていない点で、わが国で最も古い博物館である。

博物館本館をはじめとして、各建物・家具に係わる設計図も保存されており貴重である。



概要

○建築面積

- ① 博物館本館 262.63 m²
- ② 博物館事務所 79.34 m²
- ③ 博物館倉庫 54.55 m²
- ④ 博物館鳥舎 33.06 m²
- ⑤ 博物館便所 14.07 m²
- ⑥ 植物園門衛所 17.84 m²

北海道大学植物園(園内マップ)リーフレットより

博物館本館

博物館本館は、米国人建築士バートマンの設計のもとに建てられ、妻面上部には斜材を外壁に表すスティックスタイルをみせている。内部は1、2階とも1室で、陳列棚は、一部改造されているが、当初からのものである。

なお、建物の各所に開拓使のマークである星形が刻み込まれている。



博物館本館内部

博物館事務所・倉庫

博物館事務所は、本館に比べると簡素な造りであるが、しっかりした建物で保存状況がよく、基礎はレンガ積みでアーチ型の床下換気口がある。小屋組はキングポスト・トラスである。また、新築当時の机、棚などの家具が現存している。

博物館倉庫は、明治33(1900)年に現在地に曳家されている。当初は切妻造であったが、後にマンサード屋根に変え、屋根裏部屋を増築した。



事務所

植物園門衛所

植物園門衛所は、正面の脇に立つ小規模な建物である。正面に半八角形の張り出し部をつくり、ここに出入り口がある。

内部は、正面の半八角形の一部を板敷の見張所、後部を畳敷の休息所に充てている。小屋組はキングポスト・トラスである。なお、東面につく下屋は、後で増築されたものである。



門衛所

博物館鳥舎・便所

博物館鳥舎(附指定)は、大正13(1924)年に建てられた招き屋根、鉄板葺きの建物で、南前方に鉄パイプ、金網張りの運動場と称する囲いが附属している。

南面は、全体にわたってガラス戸をたて、この上に楕形の明り窓を2ヶ所に設け、また窓ガラス戸の棧に斜材を入れるなどデザインを工夫している。この種の建物としては、珍しい遺構である。



博物館便所(附指定) 博物館鳥舎

は、明治36(1903)年に建てられた。その後、大正7(1918)年に現在地に移築され倉庫として利用されたが、木摺を網代状に打った天井が現存しているほか、便所としての構造に復元されている。

- **制作年代:** 明治15(1882)～大正13(1924)年
- **指定年月日:** 平成元(1989)年5月19日
- **所在地:** 札幌市中央区北3条西8丁目
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
耕地園ステーション植物園
- **お問い合わせ:** 国立大学法人北海道大学
北方生物圏フィールド科学センター
耕地園ステーション植物園 ☎ 221-0066
- **観覧形態:** 一部内部観覧可
※開館状況は施設のHPをご確認ください。
- **観覧時間:** 9時00分～16時30分
(入園は16時00分まで) (4月29日～9月30日)
9時00分～16時00分
(入園は15時30分まで) (10月1日～11月3日)
- **休館日:** 月曜日(祝日の場合は翌日)、
冬期間(11月4日～4月28日)
- **観覧料:** 植物園入園料
大人420円(30人以上団体350円)
小・中学生300円(団体240円)
- **アクセス**
地下鉄: さっぽろ駅10番出口、大通駅2番出口、
西11丁目駅4番出口より約800m
バス: 「北5西7」(JRバス・中央バス)
「北1西7」(JRバス・中央バス・じょうてつバス)
より約400m

